

## エイズ治療・研究開発センター

AIDS Clinical Center (ACC)

1

エイズ治療・研究開発センター（ACC）は、国内外の HIV 感染症治療・研究機関との連携のもと、HIV 感染症に対する高度かつ最先端の医療提供とともに、新たな診断・治療法開発のための臨床研究・基礎研究を行っています。

ACC は、薬害エイズ訴訟の和解をふまえ、被害者救済の一環として 1997 年 4 月 1 日、国立国際医療センター病院にて設立されました。1982～1985 年、HIV が混入していた非加熱血液製剤を使用した血友病患者の約 4 割、2000 名が HIV に感染した「薬害エイズ事件」が発生。1989 年、東京 / 大阪 HIV 訴訟原告団と弁護団は、東京と大阪の地方裁判所に国と製薬企業 5 社に対し損害賠償責任を問い提訴しました。1996 年 3 月 29 日に和解が成立し、日本国内の HIV 感染症の医療福祉体制の整備拡充が進む契機となりました。このような経緯から ACC は、HIV 感染患者への最先端医療を提供や、新しい治療法の開発のための臨床研究、世界に通用する若手感染症専門医の育成に寄与する使命を持っています。

## ACC の理念

患者の人権と尊厳を重視した「患者中心」の医療を心がけ、高度かつ最先端の医療を実践します。

1. 多職種からなる医療チームで情報を共有し、安全かつきめ細やかな医療を目指します。
2. 安心・納得して医療を受けられるよう、病状や治療内容についての分かりやすい説明を心がけます。
3. 国内外の最先端医療を積極的に取り入れ、最高レベルの医療の提供を目指します。

## ACC の役割

HIV 感染症に対する高度かつ最先端医療の提供



全国から一日平均 50 名の患者が受診する専門外来では 3 名の医師が診療にあたっています。病棟には治療に専念できる 26 床と看護師 30 名を含む医療スタッフ体制があります。

臨床研究・基礎研究



治験、新たな診断・治療法開発のための臨床研究や疫学研究をはじめ、感染症全般の研究を幅広く行っています。研究成果は、論文発表や学会報告を通じて世界に発信しています。

医療情報の提供と、ブロック拠点病院・拠点病院との連携



適切な医療を受けていない患者の掘り起こし、適切な医療機関受診への誘導、ブロック拠点病院・拠点病院の HIV 診療技術の底上げに向けた活動に取り組んでいます。

専門家の育成のための研修の開催



HIV 感染者の診療・看護等の実務を担う医療従事者の育成と全国的ネットワークの構築を目的として、各種研修を開催しています。

## 救済医療室

ACC には、薬害 HIV 感染被害者のための医療福祉を実践・推進する救済医療室があります。血友病だけでなく、C 型肝炎、重篤な免疫不全状態の後遺症、抗 HIV 薬の長期内服による副作用、高齢化などが複雑に絡み合い、困難な病態にある患者が、充実かつ安定した日常生活を過ごすように国内各地の医療機関と連携して包括的な医療を提供しています。

3つの重大な課題に対する診療チーム

## 1 血友病治療

リハビリテーション医や整形外科医と連携し、血友病関節症について包括的なケアを行っています。必要な運動・訓練、装具、凝固因子製剤の定期輸注療法、手術等について助言・提言を行うほか、薬害 HIV 感染被害者向けのリハビリ検診会を定期開催しています。

## 2 肝炎治療

肝機能や肝癌の有無について詳しい検査や治療の提案を行っています。

## 3 心のケア

心理療法士と精神科医によるカウンセリングや治療を提供しています。



モニュメント「命の樹」

NCGM センター病院の血友病包括外来の前には、薬害 HIV の教訓を伝えるモニュメントが飾られています。東京 HIV 訴訟被害者 837 名の原告番号を葉に記した「命の樹」です。薬害 HIV 感染被害者を永久に守っていく責務とともに、「命の尊さ、それを守る医療」の願いを込めた象徴となっています。（モニュメントからイメージしたイラストを救済医療室ウェブサイトで使用しています）